

初年次生を対象にした ゼミナール運営を成功させるには

10/8/2013

加藤善子(高等教育研究センター)

このワークショップの目的

- 学生が基本的な学習態度を身につけるために必要な指示と実践ができるようになる
- 他学部の学生と交流し、人間的に成長するための授業内外の活動をデザインできるようになる

「人間的成長」とは何か

Seven vectors of development (Chickering & Reisser, 1963)

1. コンピテンスの開発
2. 感情の処理
3. 自己完結から相互依存への移行
4. 成熟した人間関係の構築
5. アイデンティティの確立
6. 目的の設定
7. 一貫した考え方や行動の発達

(As cited in Evans, Forney and Guido-Dibrito, 1998:38-40)

3

なぜこれらがゼミで育成されるのか

- それぞれのベクトルが、ゼミのどのような場面や特徴によって育成されるのか、考えてみましょう。
- 例えばグループでの話し合いは、どのベクトルを育成するでしょうか。

- 個人3分→ペア5分→発表

「人間的成長」とは何か

Seven vectors of development (Chickering & Reisser, 1963)

1. コンピテンスの開発
2. 感情の処理
3. 自己完結から相互依存への移行
4. 成熟した人間関係の構築
5. アイデンティティの確立
6. 目的の設定
7. 一貫した考え方や行動の発達

(As cited in Evans, Forney and Guido-Dibrito, 1998:38-40)

5

Teaching から Learning へ 転換するためのテクニック

- 学生が学ぶべき内容は教員が決める(学生に任せない)
- 全員が同じテキストや内容に取り組むようにする
- 学生がすべての受講生と話し合いができるような場をつくる
- 学生同士が協力しなければ点がとれない課題を出す
- 評価基準を定め、学生に提示し、最後までブレない(遅刻・欠席・レポート遅延提出や書き直しのポリシー、レポートの水準[ルーブリック]など)

学生を学習に参加させるには



「共同体」の心理的要素

- 帰属意識があること
- 共同体全体に対する、自分の影響力の認識
- 共同体のメンバーと協力すれば、自分たちのニーズが満たされるという信念
- 情緒的絆の共有

(McMillan and Chavis, 1986)

8

ゼミを「共同体」にするには

- レベル1(安全と帰属意識)を保証するために、教員として何をしますか(あるいは、何を学生にさせますか)?
- レベル2(学生の参加)を促すために、教員として何をしますか(あるいは、何を学生にさせますか)?
- 制限時間:5分
- 個人で考えてください。

9

Think, Pair, Share

- 隣の人とペアになり、考えを共有してください。
- ペアで合意に達してください。

- 制限時間:7分
- 発表があります。

10

授業時間の使い方を転換する

	Lecture-based teaching (講義ベースの教授法)	Interactive teaching (双方向的教授法)
Class time (授業中)	First exposure (知識との 最初の接触)	Process (提示された知識を応 用・分析・議論して 理解する過程)
Student study time (授業外学習)	Process	First exposure

Walvoord and Angelo,1998:55

11

授業外学習の指示

- この構造で授業運営をしていくとすれば、授業外学習の指示には何が書かれなければなりませんか。
- ご自身のゼミや講義を思い浮かべていただいて、それについて考えていただいて結構です。

- 個人作業3分→グループ作業5分→発表

発表

プロセスを促す質問

- 学生の学習が深まる指示：
 - 学んだ情報を自分の言葉で表現させる
 - 学んだ情報についての具体例を出させる
 - 違った状況や場面で、学んだことを当てはめたり発見したりさせる
 - 学んだ情報と、他の事実や考え方との関係を見出させる
 - 応用の方法を考えさせる
 - 次に起こることや結果を予測させる
 - 反対意見や矛盾を出させる

(Silberman,1996:5)

ゼミの時間内にすること

- ご自身のゼミにおいて、学生が迷わず取り組める質問を、2つ考えてください。
- 特定の科目や具体的なテーマに関するもので結構です。
 - ○ テキストを読んで、賛成する点と反対する点をそれぞれ2つ挙げ、その理由を書きなさい。
 - × テキストを批判的に読んで、分析しなさい。
- 個人3分→グループ5分→発表

学生の学習意欲を高める7つの実践

- 教員と学生の交流の促進
- 学生同士の互助関係の促進
- アクティブ・ラーニング(双方向的な学習)
- 迅速なフィードバック
- 締切順守の強調(授業内での課題遂行を含む)
- 高い欲求水準の提示
- 多様な才能や考え方および学習方法の尊重

Chickering and Stephen , 1996.

シラバスに書いた上で実践すること

- ゼミの運営にあたり、シラバスに明記した上で先生が実践されることを、2つ書いてください。

- 個人3分→グループ5分→発表

ありがとうございました！

- アンケートにご協力ください。
- その他にも多々アイデアやテクニックはございます。お問い合わせください。

お問い合わせはこちらまで：
加藤善子 katoy@shinshu-u.ac.jp

References

- Chickering, A. and Stephen C. E. (1996). "Implementing the Seven Principles: Technology as Lever," AAHE Bulletin, October, pp. 3-6. (<http://www.titgroup.org/programs/seven.html>で閲覧可)
- Evans, N.J., Forney, D.S. and Guido-Dibrito, F. (1998). Student Development in College: Theory, Research and Practice. San Francisco, Jossey-Bass.
- McMillan, D. W., & Chavis, D. M. (1986). Sense of Community: A Definition and theory. Journal of Community Psychology, 14, 6-23.
- Silberman, M. (1996). Active Learning: 101 Strategies to Teach Any Subject. Massachusetts, Allyn and Bacon.
- Strange, C. C., & Banning, J.H. (2001). Educating by Design: Creating Campus Learning Environments That Work, San Francisco, Jossey-Bass.
- Walvoord, B.E., & Anderson, V. J. (1998). Effective Grading: A tool for learning and assessment, San Francisco, Jossey-Bass.

19
